



連載

# 夢を叶える 大月仕事人



今月の interviewer  
大月短期大学 左から  
しおぞわみづき  
塩澤美月さん、  
さとうなごみ  
佐藤和実さん

## 自分の「好き」を追い続ける

“夢を叶える大月仕事人”の連載第15回目は、市内在住の脚本家である稲本達郎さんに、大月短期大学生がインタビューしました。



仕事の内容だけでなく、稲本さんの夢や人生についても語っていただきました。緊張がほぐれ徐々に対話が弾みました。仕事の内容だけでなく、稲本さんの夢や人生についても語っていただきました。

### 【幸せになれる可能性は自分次第】



今、若い人たちって「この先今より大変だよ」と暗い未来ばかり言われていると思います。でもそんなに悲観することないんじゃないかな。人ってどんな状況でも結構幸せを見つけられると思うんですよね。自分が最初は嫌だなと思っていても、続けていけば面白いことを見つければ

自然と集まってくるのかな。定住までは難しいかもしれないけれど、留まれるような市であり続けてほしいなと思いますね。  
―最後に、私たち若者に対して、熱いメッセージをお願いします。  
今、若い人たちって「この先今より大変だよ」と暗い未来ばかり言われていると思います。でもそんなに悲観することないんじゃないかな。人ってどんな状況でも結構幸せを見つけられると思うんですよね。自分が最初は嫌だなと思っていても、続けていけば面白いことを見つければ

―お仕事の内容を教えてください。  
アニメやドラマの脚本を書くことです。原作をそのまま脚本化する原作回と、原作にはないオリジナル回があり、私はオリジナル回を中心に書いています。具体的にはミステリー系であれば、どういう事件が起きて、犯人は誰で、どういう風に解決していくかなどのストーリーを組み立てて脚本を書いています。



**Profile**  
脚本家 富浜町鳥沢在住  
アニメやドラマの脚本を手掛ける。  
お気に入りの場所：図書館  
読書が好きで、ものを書く仕事に興味を持ち、脚本を書き始める。

―稲本さんの夢、将来の目標をお聞かせください。  
好きなことを仕事にできていますし、脚本家は続けることが大事だと思っています。なので脚本をなるべく長く書き続けることが目標です。そのためにも受け入れて、何でも書けるようにしています。脚本家は基本的に受け仕事なので、いつ仕事がなくなってもおかしくないんですよね。だから、目の前の仕事を1個1個丁寧に取り組む

ように心がけています。  
―稲本さんが感じる、大月市の魅力は何でしょうか？また、課題は何でしょうか？  
地域住民に必要な図書館と総合病院がしっかりとあるところが魅力だと思います。仕事面では私も図書館は脚本のヒントを見つける場所になっており、私生活では病院は利用しお世話になりました。  
課題は、大月に限らず言われていることですけれど、若い人が留まらないことですよね。これは何かしないといけないと思います。病院や図書館があるのも人口あつてのことだとも思っています。人口が減ると税収もなくなつて、お金が回らなくなつちゃうので、何とかしないとイケないです。コロナ禍になってリモートでできる仕事が増えると思うので、雇用を増やすとか住みやすい環境を整えれば、若い人が

れたりとか、幸せな気分になったりすることも多いんですよ。日々の暮らしの中には悪いこともあるだろうけど、ちゃんと幸せなことや良いことがあるから、どんな状況でも人は幸せを見つけ生きていけると思っています。私は去年入院して仕事ができな

い状況になったのですが、本を読むなど自分の時間ができたので辛くはなく、ある意味幸せでした。だから、幸せになれる可能性は自分次第でどこにでもあると思うので、そんなに悲観せず、楽しく生きてほしいです。

### どんな状況でも人は幸せを見つけて生きていける

脚本家の方と実際にお話しさせていただく機会は、なかなかないのでとても貴重な時間でした。

将来に不安を感じていましたが、どんな状況でも人は幸せを見つけて生きていけるといふ稲本さんの言葉に、勇気づけられました。学校生活でも働くうえでも大変なことはあると思いますが、稲本さんのように自分自身の「好き」のために努力を惜しまず継続することが大切だと改めて感じました。

私たちも日常生活に潜んでいる幸せに気づくことができる人になりたいと思います。

